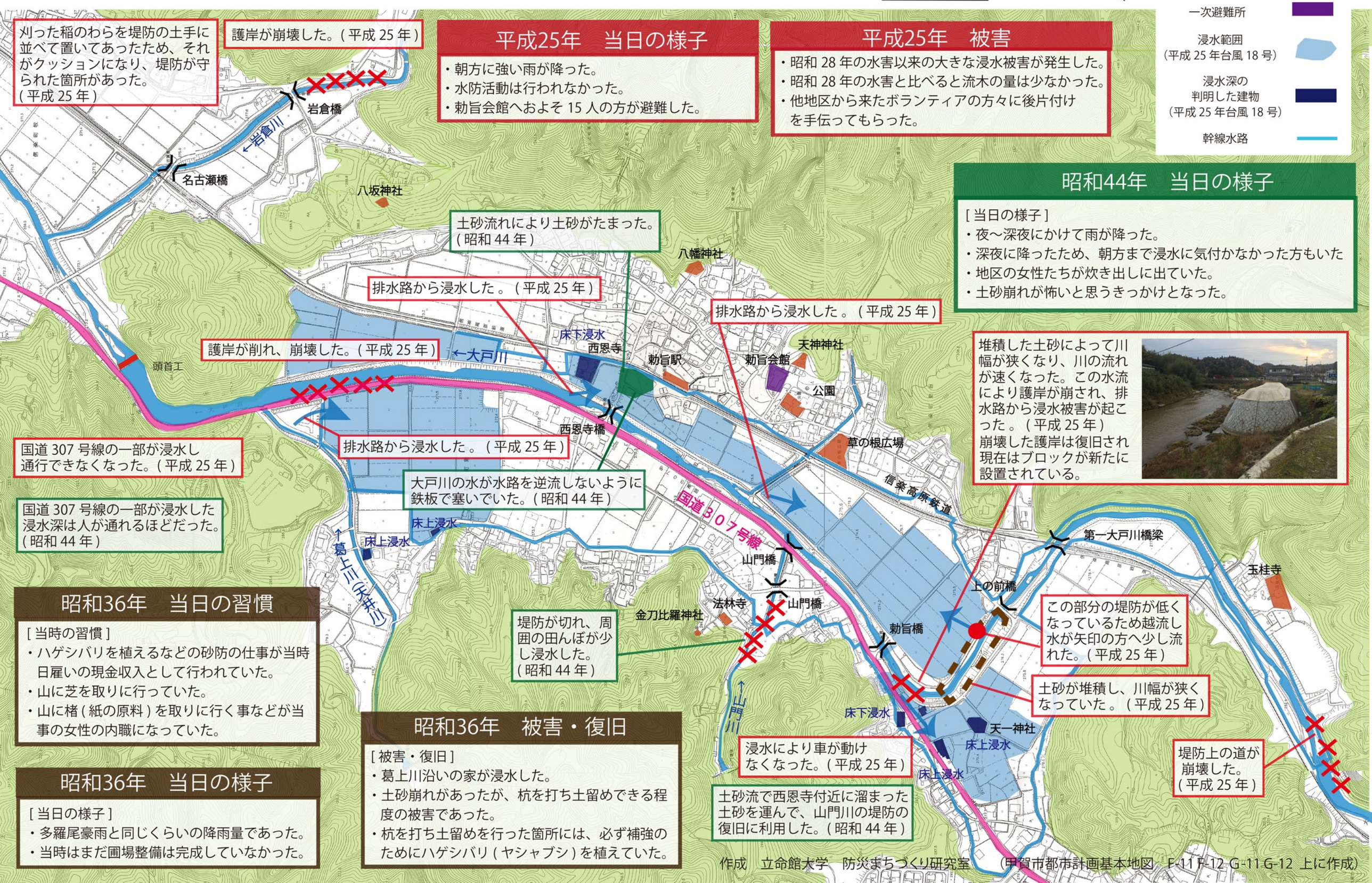
甲賀市勅旨水害履歴マップ　その③　－平成25年(2013年)9月16日(台風18号）、昭和36年(1961年）、昭和44年(1969年）－

（H28.9.14　甲賀市勅旨会館で行った聞き取り調査に基づき作成）

0　200m　N

凡例

- 堤防、護岸崩壊箇所
- 一次避難所
- 浸水範囲（平成 25 年台風 18 号）
- 浸水深の判明した建物（平成 25 年台風 18 号）
- 幹線水路



刈った稲のわらを堤防の土手に並べて置いてあったため、それがクッションになり、堤防が守られた箇所があった。（平成 25 年）

護岸が崩壊した。（平成 25 年）

平成25年　当日の様子

- 朝方に強い雨が降った。
- 水防活動は行われなかった。
- 勅旨会館へおよそ 15 人の方が避難した。

平成25年　被害

- 昭和 28 年の水害以来の大きな浸水被害が発生した。
- 昭和 28 年の水害と比べると流木の量は少なかった。
- 他地区から来たボランティアの方々に後片付けを手伝ってもらった。

土砂流れにより土砂がたまった。（昭和 44 年）

排水路から浸水した。（平成 25 年）

排水路から浸水した。（平成 25 年）

護岸が削れ、崩壊した。（平成 25 年）

排水路から浸水した。（平成 25 年）

国道 307 号線の一部が浸水し通行できなくなった。（平成 25 年）

大戸川の水が水路を逆流しないように鉄板で塞いでいた。（昭和 44 年）

国道 307 号線の一部が浸水した浸水深は人が通れるほどだった。（昭和 44 年）

昭和44年　当日の様子

［当日の様子］
- 夜～深夜にかけて雨が降った。
- 深夜に降ったため、朝方まで浸水に気付かなかった方もいた
- 地区の女性たちが炊き出しに出ていた。
- 土砂崩れが怖いと思うきっかけとなった。

堆積した土砂によって川幅が狭くなり、川の流れが速くなった。この水流により護岸が崩され、排水路から浸水被害が起こった。（平成 25 年）
崩壊した護岸は復旧され現在はブロックが新たに設置されている。

この部分の堤防が低くなっているため越流し水が矢印の方へ少し流れた。（平成 25 年）

土砂が堆積し、川幅が狭くなっていた。（平成 25 年）

堤防が切れ、周囲の田んぼが少し浸水した。（昭和 44 年）

浸水により車が動けなくなった。（平成 25 年）

土砂流で西恩寺付近に溜まった土砂を運んで、山門川の堤防の復旧に利用した。（昭和 44 年）

堤防上の道が崩壊した。（平成 25 年）

昭和36年　当日の習慣

［当時の習慣］
- ハゲシバリを植えるなどの砂防の仕事が当時日雇いの現金収入として行われていた。
- 山に芝を取りに行っていた。
- 山に楮（紙の原料）を取りに行く事などが当事の女性の内職になっていた。

昭和36年　当日の様子

［当日の様子］
- 多羅尾豪雨と同じくらいの降雨量であった。
- 当時はまだ圃場整備は完成していなかった。

昭和36年　被害・復旧

［被害・復旧］
- 葛上川沿いの家が浸水した。
- 土砂崩れがあったが、杭を打ち土留めできる程度の被害であった。
- 杭を打ち土留めを行った箇所には、必ず補強のためにハゲシバリ（ヤシャブシ）を植えていた。

作成　立命館大学　防災まちづくり研究室　（甲賀市都市計画基本地図　F-11 F-12 G-11 G-12 上に作成）